

多かった答え

これ以上、人間が他の動物の生活する範囲を狭くしない
人間の生活領域をこれ以上広くしない
森林がある場所に建物をつくらない 森林の伐採を止める
動物とふれあう場所をもっと増やす（愛情が生まれるように）
人間な生活を原始的な生活に戻す（少数意見）
動物の生育する大陸と人の暮らす大陸とを分ける（少数意見）

4. 感想を書かせる

生徒：授業の感想を書く

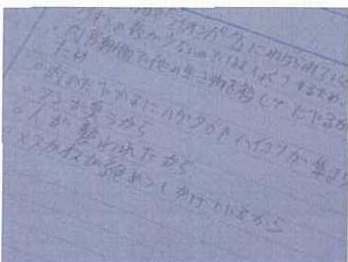
5. まとめ

(4) 生徒の反応

環境問題というと、1時限目に挙げた事柄を列挙し、その原因や対策について語ることは容易にできるようであった。また、自分たちの生活がその環境破壊に繋がっていることについても認識しているようであった。生徒達は基本的に人間が自然に手を加えることが、自然を破壊することであるという認識を強く持っており、実際にこの授業の最後でも、質問3の答えとして、「原始時代の生活に戻す」「動物と生活領域をともにして混ざって生活する」という極端な意見も見られた。しかし、ライオンが歩いているところに、裸で出ていき、そのまま暮らしてくださいと言うと、「それはできないな」といった様子で考えを改めていた。

ここでは人間の生活はやはり改善が求められる一方で、大きな転換が難しい中どのようにして自然と共存すべきなのかを考えなくてはならない。その点をふまえて、将来の地球環境を担う人材として、考えて欲しい問題である。丹沢の自然環境などに置き換えられると、生徒もじっくりと自分たちのことと直接的に結びつけて考えることができ、しっかりとした意見も出ていた。

ライオンやシマウマなど身近なようで身近でない動植物を対象にすることは、大変興味関心をそそる。特に生徒は、ライオンのエイズや、ゾウの繁殖原因などに対しては、考えさせられる場面も多く印象深かったようだ。食物連鎖ゲームを加えたことで、楽しくかつ真剣に問題に取り組むことができ、日頃の授業よりも心に深く刻まれたようだ。



(5) 生徒の感想から

1. ライオンもエイズにかかるとは思わなかった。シカはライオンに食べられたりしたほうが、実は数が安定するなんて驚いた。ゾウが増えた原因は、結局は人間のやったことだったので、悲しかった。
2. 先生の話聞いて、行ったこともない場所についていろいろ知ることができました。それにゾウに敵がない（人以外）ことも初めて知りました。ジンバブエの自然もたくさん知ることができたし、どんな暮らしをしているのか知ることができました。本当に良い経験になりました。ゲームをやりながらも学ぶことができました。とても楽しかったので、また他の国やジンバブエについていろいろな話を聞きたいなと思いました。
3. ジンバブエは日本と遠い動物（ライオンやゾウ）が自然にいて、うらやましいと思った。しかし学校に行けない子いける子の差が大きいことは嫌だと思った。ジンバブエはアフリカにあり、自分の思っていたアフリカのイメージと似ているなと思う部分もあったが、中には都会があり車がありで、驚いたこともある。イメージにしばらくはならないようにしたい。世界はそれぞれの国の困っているところ、真似たほうが良いところを知り、お互いを理解した方がいいと思う。
4. 動物についての問題があるのは知っていたが、こんなものもあるのだなあと驚いた。自分の予想と実際がかなり違っていたので意外だった。（特にライオンは驚いた。）知らないうちに動物の住みにくい環境をつくっていたことに気がついた。質問3がこれからの大きな課題であり、その答えを導き出していくのが大切だと思った。
5. 今、世界の中で「貧困・環境破壊」などといった問題が起こっていて、ニュースでも良く耳にする言葉です。特に、アフリカでは発展途上国と呼ばれる国が多く、日本よりたくさん問題を抱えているのが現状だと思います。今まで私は、日本に住んでいるから、アフリカなんて関係ないやと思っていました。これは地球全体の問題であり、私にも関わっているんだと感じました。私たち一人一人がちゃんと意識して生活することで、変わる（世の中が）と思いました。ますます国際関係について興味を持つようになりました。
6. ゲームをした理由が深かった。ライオンがエイズにかかっていることに驚いた。ゾウを保護したことが理由で他の動物や植物に被害が出ていることは知らなかった。ジンバブエで近代的な生活をしていることには驚いた。アフリカでも環境破壊につながる事態になっていることには驚いた。

(6) 所感・反省点など

教師海外研修では、社会的な問題のみならず、環境問題に関して現地の協力隊員や市役所職員とディスカッションする機会も設けられた。理科で国際理解教育・開発教育に取り組む内容としては、この「環境」分野が良いのではないかと考えた。

しかし、「環境問題」となると幅が広く、ポイントもぼけてしまいがちである。実際に模擬的な授業として、様々な環境問題の事象が書かれたカードを、ジンバブエにありそうな環境問題と無さそうな環境問題とに分け予想を立てた後、ジンバブエの写真などを見て、もう一度検証し直すという授業を展開してみた。生徒のアフリカに対するイメージが明らかになり、またそのイメージを壊すことができた点は良かったが、伝えたいメッセージがまたは考えさせたいポイントが無く、分かりにくい授業となってしまった。